

令和4年 第12回米子市教育委員会定例会会議録

日時 令和4年10月24日（月）午後4時
場所 教育委員会室

出席した教育委員会教育長及び委員の氏名

浦 林 実（教育長）
白 井 靖 二
上 森 英 史
荒 川 陽 子
三 瓶 文 乃

説明のため出席した職員の職氏名

事務局長兼こども政策課長	松 田 展 雄
こども施設課長	齋 木 雅 徳
こども支援課長	金 川 和 弘
学校教育課長	西 村 健 吾
生涯学習課長	毛 利 公 一
学校給食課長	伊 藤 康 恵
学校教育課担当課長補佐	平 野 勝 久
学校教育課担当課長補佐	鉄 尾 知 史
こども政策課担当課長補佐	木 村 俊 文
こども政策課主事	石 塚 亜希子

議事日程 令和4年10月24日（月）午後4時

- 第1 会議録署名委員の指名
- 第2 前回の会議の会議録の承認
- 第3 教育長の報告
- 第4 議 事

報告第8号 令和4年度の各種学力調査に係る本市の状況について

開 会 午後4時

浦林教育長 ただいまから、令和4年第12回米子市教育委員会定例会を開会いたします。

1 会議録署名委員の指名

浦林教育長 それでは、日程第1 会議録署名委員の指名を行います。
会議録署名委員に上森委員を指名いたします。

2 前回の会議の会議録の承認

浦林教育長 次に、日程第2 前回の会議の会議録の承認に移ります。前回の会議の概要について、事務局から報告をお願いします。

松田事務局長 教育長。

浦林教育長 松田事務局長。

松田事務局長 前回の会議は、令和4年9月28日に開催され、議案第51号「米子市指定有形文化財の指定について」及び、議案第52号「米子市指定史跡名勝天然記念物の指定について」についてご審議いただき、原案のとおりご承認いただきました。

浦林教育長 前回の会議の会議録を承認します。

3 教育長の報告

浦林教育長 次に、日程第3 教育長の報告について、私から報告をいたします。

10月19日をもちまして、今年度17回ございました計画訪問が無事終了しました。委員の皆様、お忙しい中ご都合をつけていただきありがとうございます。

学校の経営方針を説明するのに、校長のプレゼンがほぼ定着してきたなと思っております。授業では、目当て・まとめ・振り返りというのをセットでやっていこうとしておりますけれども、段々その定着が図られてきたなと思っております。

次は、問いと答えがぴったりと一致しているような黒板であったり、子どもたちの発言であったりについて、更に精度を高めていかなければならないと思いますし、何より今、学習指導要領で求められております、主体的で対話的で深い学び、コロナの中ではありますけれども、工夫しながらそういった学習を更に推進していくということを、また1年頑張っていきたいと考えております。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

4 議事について

浦林教育長 報告第8号「令和4年度の各種学力調査に係る本市の状況について」を議題とします。

事務局から説明をお願いします。

西村課長 はい。

浦林教育長 西村学校教育課長。

西村課長 学校教育課から、報告第8号令和4年度の各種学力調査に係る本市の状況につきまして、ご報告をさせていただきます。

学力につきましては、例年、事務の管理及び執行状況の点検評価におきまして、前年度の学力の状況、主に全国学力・学習状況調査を中心にご報告させていただいております。今年度の状況と経年の学力の移り変わり等々、総合的にご報告いたします。

では資料の2ページをご覧ください。ご報告させていただく調査は、全国学力・学習状況調査ととっとり学力・学習状況調査となります。

全国学力・学習状況調査は、本年4月19日に、小学校6年生と中学校3年生すべての児童生徒が実施しております。

とっとり学力学習状況調査につきましては、本年5月9日から18日の間に、小学校4年生・5年生・6年生、そして中学校1年生・2年生を対象に実施したところでございます。

なお、とっとり学力学習状況調査は、令和3年度実績で、全国108市町村約14万4千人が実施しております。それぞれの目的はございますが、いずれも児童生徒の学力や学習状況を把握して、教育施策や指導の工夫・改善につなげるものでございます。

調査結果でございますが、まず全国学力・学習状況調査は、小学校国語、理科は全国の平均正答率とほぼ同値ですが、算数は若干下回っております。ただし鳥取県の平均より下回っているものはございませんでした。一方、中学校は数学で特に良い結果が出ております。令和元年度以降継続して全国を上回る結果が出ておまして、各校での取組の成果と言えるのではないかと思います。

その下のグラフ、全国学力・学習状況調査は、平成19年度から始まったものですが、真ん中のラインを全国平均正答率とし、それに比べて本市がどうかというものを表したグラフでござい

ます。今は国語、算数、数学となっておりますが、平成30年度以前は算数A・B、国語A・Bとありましたので、それらも含めてグラフで表したものでございます。

平成26年度あたりから、小学校を中心に全国平均正答率を下回っているような状況でしたが、近年の取組でその差を縮めてきており、一部では全国平均正答率を、特に中学校におきまして、上回ってきている状況でございます。

続きましてとっとり学力学習状況調査の結果でございますが、3ページをご覧ください。まずそれぞれ国語、算数、数学におきまして、小学校4年生から中学校2年生までの各学年の正答率が、県の平均と比べてどうなのかというものをそれぞれの欄の右側で表しております。4年生はそれしかございませんが、5年生から中学校2年生にかけては、その前年度より学力の伸びた児童生徒の割合を矢印の数で表しております。上向きの矢印の数が多きほど学力が伸びた児童生徒の割合が高い、というものでございます。全体的には、学年が上がるにつれて非常に良い結果が出ているということが米子市の特徴と言えまして、4年生以降、徐々に差をつめてきて、特に中学校では全学年、教科で県平均を上回っているような状況でございます。学力を伸ばした児童生徒の割合も、平均して70～80%でありまして、学校、学年によりましては90%以上の伸び率もあったことが結果としてわかっています。

その下は、米子市の学力レベルの県との比較でございます。結論から申しますと、それぞれの学力レベルが、県の平均と比べまして、学年が上がるにつれて上回ってきているものでございます。それぞれ調査結果から、小学校高学年および中学校において確実に学力を伸ばしていくための環境、それから学校の取組がなされてきておりますが、一方で小学校3・4年生の指導について改善の余地が残っている、もう少し言えば3年生以前の小学校低学年からの指導の改善の余地も残っているのではないかと、ということ課題として認識してるところでございます。

こういった小学校低学年あるいは中学年段階の学力を押し上げることができれば、高学年あるいは中学校での学力上昇をさらに見込むことができるというような仮説も持って現在取り組んでいるところでございます。

報告は以上です。

浦林教育長 質疑はありませんか。

上森委員 この過去15年のデータを見させていただいております。長

く教育委員させていただいているわけですが、平成の終わりぐらいから、学校では学力保障ということを第一に考えなければならぬと絶えず言わせていただいております。

15年前以降は全国平均だとか県の平均を2点3点上回っていたわけですが、7、8年前からどんと下がって、今少しずつ良くなっている。この表を見て明らかにわかっているわけですから、もう少し分析をされて、どこをどういうふうに直していけば学力が上がってくるのか、県の平均を上回るということではなく、全国平均を上回る学力というものの保障を、米子市としてはつけてほしいとお願いをしていたところではあります。

考察というか、学力の低下した原因をどういうふうに捉えられていて、それに向かって上がってきた所に関してはどういう対策を打たれてきたか、今一度聞かせてほしい。

西村課長 はい。

浦林教育長 西村学校教育課長。

西村課長 様々な切り口がございますけれども、一つが、全国学力・学習状況調査にしてもとっとり学力・学習状況調査にしても、これから子どもたちが生きていく社会で、たくましく生きていくための力を図るようなものであるということをしっかり学校が認識して、そうした授業に変換していかないといけないというところでもあります。

もう一つが、野球に例えて学校長にはお話をしておりますが、戦術だとか野球を楽しむ前に、まずキャッチボールがしっかりできていない、つまり基礎基本のしっかりした定着を図ることを同時にやっていかないといけないと、学校の方には常々指導しているところでございます。

つまり、授業改善と同時に、子どもたちに、土台となる基礎的・基本的な力をしっかりつけることという、両輪で進めていく必要があるかと考えております。成果が上がっている学校については、授業改善もしっかりなされており、今、学習指導要領で求められているような、あるいは学力調査で求められているような力をつけるための授業をしっかりと実施しています。と同時に、学校全体で組織としてしっかり子どもたちに力をつけていくんだという共通認識のもと、組織として徹底した取組がなされている学校が非常に多いという認識を持っております。

課題がなかなか克服できなかった学校については、これまでいろいろな回って校長の悩みを聞いたり、改善の方策を提案し

たりしてきておりますので、今後も引き続き、きめ細やかに、学校の取組や結果を評価して指導につなげて参りたいと考えております。

上森委員

大規模校が学力低下し、全体に響いた時期があった。大規模校の平均点が下がると、全体に占める割合が大きい。しっかりと教える先生が現場からいなくなった。

学校で見させてもらおうと、3年生4年生の算数の授業で、半分ぐらいの子が分かってないのではないかという気がしている。特に割合だとかそういうところで躓いている。5年生6年生で点が取れない。それをなんとか中学校で挽回してもらってという授業の展開で、後追い対症療法だけの授業になっていないかとずっと感じていた。先手を打ったプログラムをしていかないと、全体的に上がっていかない。

保幼小の連携、特にしつけも含めて、小学校に上がってくるまでの授業、上がってきて、きちっと授業ができる体制を作るまでが、できている学校とできていない学校があるかなと見受けられた。

少しずつ改善できているのではないかと感じているが、まだまだ。県平均と比べるのではなく、全国平均と比べる。事務局としてはそれくらいの気持ちでいてほしい。

教育長がいつも言うておられる、まだまだ改革途中半ばだなという感じがして、1年2年で改善することは難しい。

母体が大きければ大きいほど、特に大きな学校が崩れたらどうもこうもならない。直るのに、1年生から6年生、5、6年はかかる。その辺を含めて先手先手のプログラムなり、いろんな計画を立ててほしいと、改めて感じた次第です。

浦林教育長

小学校入学時で、子どもが前を向いて聞くような昔の指導では、学級経営は難しい状況になっているのがわかってきております。就学前教育とどうつなげるかを非常に重要視しております。オープンスクールを始めております。すべての年長の皆さんに小学校を見てもらって、学校はこんな感じですよと、保護者の皆さんと一緒に見ていただいて、不安を取り除きたいというのが大きな狙いがございます。

その5歳児と6歳児に、学校社会に順応するということを多少わかってもらおう。なかには、学校が工夫して、なかなか高評価を得ております。

小学校に入るまでに何とかというところがございましたが、昔型のじっと座ります聞きますという教育でやると、子どもが

もう耐えられない。スタートカリキュラムという、小学校入ってすぐの子どもに、どういった教育を展開するかという資料を作りまして、今年度から学校に配っております。一例を示しますと、「学校ではこんなふうにして生活しますよ。」と先生が押し付けるのではなく、「保育園はどうでしたか？」などと子どもから意見を聞くものです。「給食の前にはどうしてましたか？」と聞いて、「手を洗った。」とか「白衣を着た。」とか、子どもたちの方から言ってもらって、「じゃあ、こんな感じの教室でやっていこうか。」と、子どもが前向きになれる。言われたことを押し付けられるのではなく、自分たちの生活経験を出して学級のルールを作る。子どもたちが納得しながら、対話をしながら作る。そういった教育の転換も図っていく。それがひとつございます。

また、若手が急激に増え、市部への配置が非常に多く、ベテランから若手への指導の切り替えがうまくいかないという悩みもございます。学校ごとに指導の仕方が少しずつ違っておりまして、ばらばらに指導していると教育効果があがらないというデータもございました。

福井とか秋田とか、どうやって取り組んでいるか調べてみると、全県で同じような指導をして成果が上がっております。学年が変わっても変わらない。これを目指すべきだろうと、西部の教育長みんなが集まってくださった時に 目当てとまとめと振り返りをきっちりやってる都道府県は結果を挙げているぞというのが明確に出たもので、どうでしょうかと伺ったら、皆さん「やりましょう」と言ってくださいました。さらに拍車をかけて、スキルを上げていって、授業を見てもらっても、板書の形など向上しております。授業の構造自体は良くなってきております。経験を積んで、主体的な学びってどんなものなんだと、どんどん子どもたちから引き出すようにする、過渡期に来ているというか、若手の伸びる方が期待できる部分がございます。なんとか乗り越えたいというところでございます。

一方でスペシャリストを育てないといけないというところでございます。エキスパート教育というものが県の認定でございますが、米子で発掘していこうとか、いないなら鍛えてそうしてもらおうというところで、結構増えております。中学校区に一人二人は、米子のレベルならいるよねというところでございます。

一つの方法ではなかなか簡単にいかないもので、いろんな手を駆使してやっとなんかこれぐらいでして、まだまだ満足していません。もっと高いレベルで、子どもたち、または先生たちは導いてくれると、学校と対話をしながらやっているところであります。

学校はみんな頑張っております。校長も一生懸命やっております。その方法がそれで本当に正しいかどうかというのは校長も心配だと思っているので、3年ぐらい前から、私と課長で、頑張っているけど、結果が出ない学校は校長先生としっかり面談をしております。

その話もだいぶ良くなっておりまして、ずっと聞いてきておりますが、具体的にこれをするとか、もう始めているとか、学校がどんどん考えて動き出しているなど感じているところがあります。

粘り強く、新たな手法も考えながらチャレンジしていきたいと考えております。まだまだ子どもたちは結果を出してくれると信じております。

荒川委員 計画訪問で校長先生のお話を伺ったり、実際授業を見せていただいて、現場の先生方がすごく頑張っておられるし、工夫があったり苦労があったり、伝わってきています。若手の先生の指導について、より工夫を求められるのかなというのが1点と、校長先生の意識、グラフもだんだん上がってきてはいるけれども、子どもは今しかないといえますか、2年後3年後の計画ではなく、今の学力が大事で、3年になったら中3は卒業する、今が大事と意識しております。

校長先生のお話では、今年はこうで、先はこうしたいと仰いますが、今年の小学校6年生は来年卒業してしまうので、今が大事だと考えています。

管理職の先生方の考えであるとか、どういう風に受け止めたらいいのかなというのが1点と、全国学力状況調査で質問紙等もあると思いますが、これについては気になることはなかったのか、特に問題はなかったのか、データがあればお伺いしたい。

西村課長 はい。

浦林教育長 西村学校教育課長。

西村課長 若手教員の育成という点、今の学力を短期的な視点でどう改善してくかという点、そして質問紙についてのご質問ですが、私のほうから最初の二つについてお話しします。

仰るように、若手教員の育成というのは、米子市に限らず、全体的・全国的な課題と認識して、様々な手立てを講じて行っているところがございます。先進的な取組をリサーチしたり、あるいは独自の方法を模索したりしながら取り組んでおります。

例えば、一人の先生の授業を全員で見て、放課後集まって、あの時の発問はどうだったとか支援はどうだったとか、これはこれで大事なんですが、なかなか今の若い先生方は同じ授業の先生の所作を見ても気づかないといいますか、「なるほど」とか「これはこうじゃない？」と気付かないことが多いのではないかとこの仮説を持っています。

目の前の映像が通り抜けていくような先生が多い中で、要はライブで同時進行で伴走していただきながら、これはこうだよあれはこうだよというようなことができないかなと考えたときに、北海道の旭川市の取組で「ジョブ・シャドウイング」という手法がございます。

一日中模範となる先生に張り付いて、例えばその先生が授業しているときに常にそばにいて、その都度、小声で模範となる先生の意図だとか、効果などを解説をいただきます。

同じような理屈で、模範となる授業を映像で流しながら、その都度解説をしたり、あるいは「あなただったらどう発問する？」といったようなやり取りをしたりしながら授業を分析し、指導の改善を検討するといった取組を進めております。

今年は市内の初任者、若手の講師を100人ぐらい集めて、夏季講座を実施し、今いま求められている授業とはどういうものかという研修を市内全域で行いました。もちろん、こうした取組以前に、学校の方でOJTを日常的に行っております。人材育成というのは一朝一夕にはならないものですが、こうした取組を地道に進めているところでございます。

2つめでございますが、即効性のある学力向上の取組につなげられないかというのはご指摘のとおりですが、なかなか一朝一夕に効果があがる類のものではないというのが現状でございます。だからと言って手をこまねいてもおられませんので、例えば、今年の6年生の学力調査の結果が芳しくなかった学校に教育長と赴きまして、この6年を卒業までにどうしていくかというプランをつい最近伺ってきたところであります。プランで不十分であれば、我々も指導をしていきたいところではあります。その校長はしっかりしたプランを持っておりました。

また、市内全域を見回して、取組や指導助言が必要な学校には、こまめに赴いて助言していきたいと思っておりますし、学校の方に啓発をかけたりにしながら、短期と中期・長期と両輪で進めていかなければならないと認識しているところです。

鉄尾担当課長補佐 はい。

浦林教育長 鉄尾担当課長補佐。

鉄尾担当課長補佐 先ほどありました児童生徒質問紙調査の結果ですけれども、米子市教育振興基本計画に関連する項目でいきますと、例えば「心を育む学びのある町」の、「自分には良いところがあると思いますか。」であったりとか、「人が困っているときはすぐ助けていますか。」といった項目は全国を上回っておりますし、「学ぶ楽しさのある町」でいきますと、「一日あたりの授業時間」でありますとか「読書の時間」といったものも、全国よりもいいポイントというのが出ております。

ただし、コロナ前に比較しますと、全国的に下がっている項目がありまして、地域行事のことでありますとかは全国的に下がってきているところでもあります。米子市は、全国よりは上回っている結果が出ております。

生活習慣に関する項目については、おおむね9割を超えるようないい結果が出ております。例えば「朝食を食べる」とか、「同じくらいの時刻に寝ている」といったことになります。

ただ、ICTのことがいろいろ言われておりますが、小学校と中学校で評価が変わっております。中学校では普段の学習中に使っているという回答が多かった一方、小学校の方では、全国に比べて少し低いポイントがでておりまして、小学校の方からもICTの有効な活用というのを推し進めていかなければいけないという結果が出ているというところでもあります。

荒川委員 ICTの活用については、計画訪問等でも、違和感なく文房具のように使っているなど受け止められる学校と、そこまでいけないなどという学校もあるんですけど、それと同時に書く力も重要だと思しますので、併せて進めていただきたいです。先ほどの若手の先生方の指導であったりとか、短期の学力についての陰に、先生方の多忙感がどうしてもぬぐいきれず、無理のない先生の活躍といたしますか、コミュニティスクールをうまく組み込めればなと思しますので、そのあたりも配慮しながら進めていただけたらなと感じます。

三瓶委員 少人数教室というのが前から始まって、算数とかクラス半分に分けて、別の先生で指導されるというのを計画訪問で見させていただいているんですけども、その先生によって板書の仕方変わったりとかも気になるころではありますが、少人数の分け方、生徒の分け方というのは決まっているのか、それとも学校が決めて分けているのかお聞きしたい。

西村課長 結論から申しますと、児童生徒の実態や、指導内容、発達段階等によって、流動的かつ弾力的に運用していると認識しております。例えば、単純に人数を少人数に分けて、同じような指導方法で進めていくのがふさわしい單元なのか、あるいは、児童生徒の学習内容に対するレディネスから、習熟度によって指導方法をそれぞれに工夫しながら進めていくのがふさわしい單元なのか、そのあたりを指導者がしっかりと見極めながら編制しているところでございます。

三瓶委員 1年間ずっとそれではなく、單元によって変わっていくということでしょうか。

西村課長 一般的には、單元によって編制していくというのが効果的だと考えております。子どもたちにアンケートを取って、自分は頑張っってこっちでやりたいということもあると思いますし、安易に長期にわたって固定するべきではないと認識しております。

白井委員 計画訪問でいろいろな授業を見させてもらってる中で、授業のうまい先生は、子どもたちが惹きつけられて、ちゃんと学習に向かっている。何がすごいのかなと思ってみると、対子どもとのソーシャルスキルが高い。しっかり子どもたちを見て、反応も返しながら、子どもたちも自然と先生の方を向いて勉強に集中しているというか、授業の各教科等の専門的なスキル以前の、ソーシャルスキルも、特に若い人たちにこれからしっかり学んでほしいと思いながら見ていました。ICTを活用した授業を進めるうえでも、そのことがとても大事なかなと。中には先生が自分の手元の機器に目が行って、そこで指示を出しているけども、子どもたちが見えているのかなといったことが気になる場面も多々見受けられました。

若手の先生だけじゃないんですけれども、特に若手がこれから増えて、どんどん人が入れ替わっていく中で、そういったことを大事にしながら学力向上に努めていってほしいなという感想ももっております。

浦林教育長 学校へ、「ICTの機器を使うのはいいけれども、子どもの目の奥を見て授業をするように教員に言ってやってくれ。」と言っております。今委員が仰ったとおりだと思います。答えはすべて子どもの目の中にあると言っているんですけれども、子どもの目を見ずして、どういった状況か分かるわけがないし、その目を見

ながら対応していく。私も通じるところがありますから、校長にしっかり伝えて、言葉として伝えたいというふうに思っております。

知りたければ、子どもの目を見たり、ノートを見たり、どれだけ理解しているか、気になるはずなんですけど、気にならないというのは改めなければいけないところでございます。

学校の方で変わってきたプラス面は、ABCでその時間の目標をクリアできていない状態にある子どもたちに、どう支援してBを乗り越えるか、CをBに持っていくか、BをAに持ってくるにはどうしたらいいか、そういったことを取り組んでいる学校が非常に増えております。ただ、その声かけがまだまだ不十分でございまして、的確な指導ができるように一緒になって考えておりまして、もう少し学校にメッセージを出せばなと思っております。そうすれば、目の合う子どもも増えてくるのではないかなと思っております。

浦林教育長 その他よろしいでしょうか。

浦林教育長 いろいろ具体的に、また目標的のところも議論していただきましたので、大切にしながら学校への指導に当たっていきたいと考えております。

(質疑なしの声)

浦林教育長 以上で本日の議事は、すべて終了しましたが、その他で何かありますか。

浦林教育長 本日の議事は全て終了いたしました。以上をもちまして米子市教育委員会を閉会いたします。

閉 会 午後4時37分